

# 未来を見据えて



## 被災地の復興に向けて

東日本大震災の発生から4年が経ちました。

被災地では、「復旧」から地域振興や街づくり事業などの「復興」段階に向けて着実に歩みを続けています。

福島第一原子力発電所の安定化作業では、汚染水対策や放射性物質の除染作業が急ピッチで進められています。

当社は、震災発生直後からこれまで、地震や津波によって損傷・倒壊するなど甚大な被害を受けた港湾施設を中心に、復旧・復興支援に尽力してまいりました。

本格復興の早期実現に向けた一助となるべく、引き続き、全社をあげて取り組んでまいります。本報告書の特集では、早期復興に向けて、現在当社が取り組んでいる事業の一部をご紹介します。

## 顧客志向を高める

国内では、東日本大震災からの復興加速に加え、成長戦略の具体化、切迫する首都直下地震や南海トラフ巨大地震等の大規模災害などからの国民の安全・安心確保、地域の活性化

といった分野への取り組みが推進されています。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えて、首都圏ではさまざまなインフラ整備が動き始めています。

誠実な施工により、顧客からの信頼を得ていくことは建設業の原点です。高品質の施工によって顧客のニーズにしっかりと応え、顧客満足度の向上に取り組んでまいります。

また、当社の発祥の地である横浜市鶴見区安善では、2014年11月より新技術研究開発棟の建設を始めました。研究開発設備を充実させることで、低炭素・資源循環・自然共生の実現に向けた再生可能エネルギーや海洋資源開発関連など、多様化するニーズに応えていきたいと思っています。顧客と社会からの期待と信頼に応えられる企業として、躍進の原動力のひとつとして期待する施設は、2016年3月の完成予定です。

## 挑戦を続ける企業グループとして

当社のシンボルマークである「三羽鶴」は、創業者の浅野総一郎とこの夢に共感し支援をした安田善次郎、渋沢栄一の3氏を象徴的に描いたものです。

東京湾に近代的な港を築き、東京・横浜間に一大工業地帯



をつくるという壮大な夢を実現するために、3氏の思いが「ひとつ」になって当社の歴史が始まりました。

私は、社長就任以来、「東亜はひとつ」ということを強く申し上げますが、東亜グループが「ひとつの東亜」となって、未来を見据えながら常に挑戦し続ける、そういう企業グループでありたいと思っています。

### **健全で継続的な発展を目指して**

当社は、「高い技術をもって、社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす」という社是を掲げています。この経営理念のもと、経営活動の根幹にCSR活動を据え、健全で継続的な社業の発展を目指すべく、役職員が一丸となって取り組んでまいります。

引き続き、ステークホルダーの皆さまにおかれましては、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

本報告書は、当社グループのCSRに関する活動実績をまとめたものです。ご一読いただき、皆さまからの忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長

松尾正臣